

地域情報（県別）

【群馬】群馬県女医会賞を創設「女性医師の地位向上のために」-山下由起子・群馬県女医会会長に聞く◆Vol.1

群馬県女医会は1947年に結成、現会員数は約150人

2024年12月6日（金）配信 m3.com地域版

群馬県の女性医師で結成する群馬県女医会は、女性医師の地位向上を目指して群馬県女医会賞を創設した。2024年7月に第1回の表彰式を行い、医学研究奨励賞に浜谷博子医師、地域貢献賞に菊地麻美医師を選出した。同会会長の山下由起子氏に同会の歴史や活動、同賞創設の経緯や手応えについて聞いた。（2024年10月28日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)（近日公開）

——群馬県女医会の歴史や活動について、教えてください。

群馬県女医会が結成されたのは1947年（昭和22年）です。初代会長は真中すす先生で、結成時の会員は約90人でした。真中先生は群馬県初の女性医師です。真中先生は東京の済生学舎に学び、1905年（明治38年）、医術開業試験に合格して前橋市で産婦人科を開業しました。真中先生は努力家で、診療を終えた後に東京まで学びに行くこともあったそうです。

日本初の女性医師である荻野吟子先生は、1885年（明治18年）に医師となっていますので、それから20年後に群馬でも女性医師が誕生したことになります。その後、昭和初期には群馬県内に約50人の女性医師が活躍していました。現在、当会の会員は約150人となっています。2010年には「群馬県女医会60年史」を発刊しました。

発足以来、当会は「会員相互の親睦を深めるとともに、学術の向上を図り地域医療に貢献すること」を目的としています。具体的な活動内容は時代により変遷していますが、定期的集まり出身大学や専門に関係なく親睦を深めています。また、医業に携わる者としての悩みや日常の工夫などを語り合い、医業以外でもさまざまな情報を交換できる場となっています。地域医療の一環として、市民向けの公開講座を開き、医療情報の発信も行っています。会員向けにも講演会を開いています。

なお、コロナ禍の際はオンラインで講演会なども実施しましたが、オンラインにしたことで遠方からの参加者が増えました。遠方の方々もオンラインなら参加しやすいので、今後もオンラインは活用したいと考えています。



山下由起子氏

——会員向けの講演会では、どんな内容を取り上げているのですか。

会員の専門が多岐にわたりますので、内容もさまざまです。最近の例ですと、2021年に「明日からの診療に使える漢方～婦人科3大処方と次なる一手」（中山毅先生）、2022年に「ダイバーシティ推進の取り組みと総合診療医の育成」（小和瀬桂子先生）、2023年に「日本医師会のコロナ感染対策と今後の展望」（釜沼敏先生）と「片頭痛診療の最近の話題」（服部公彦先生）、「糖尿病性神経障害性疼痛の診断と治療」（中島康代先生）、2024年に「医療の質と安全 いま私たちにできること」（田中和美先生）です。

受賞を履歴書に書けるのがポイント

——会長として、どんなことに取り組んできましたか。

私は2019年7月に会長となりました。近年は、女性医師の増加に伴い、社会の中でその役割や責任が大きくなってきています。しかし、女性医師の働く環境はまだ整っていません。女性医師が十分に力を発揮するためには、労働環境の改善や地位向上が必要だと感じています。そこで、これまでの活動に加え、女性医師の地位向上につながる活動もしたいと考えて取り組んできました。

女性医師の置かれた状況を見ると、「M字カーブ」とよく言われますが、妊娠や出産、育児をきっかけに、女性医師は職場を離れがちです。当会も「認定医や専門医を目指して学びを深めようとしても、仕事と家庭の両立が難しい」との声を女性医師から聞いています。

女性医師の地位向上に向けた具体的な取り組みとして、新しく始めた群馬県女医会賞があります。将来的には、若手医師との交流も活発にし、男女共同参画社会の実現の一助となる活動を展開したいと考えています。

——群馬県女医会賞について教えてください。

群馬県女医会賞は、女性医師や若手医師を支援するために創設しました。同賞は2部門で構成され、医学の発展に貢献することが期待される医師を表彰する「研究助成部門」（医学研究奨励賞）と、地域で社会や医療、女性の地位向上へ貢献している女性医師を表彰する「地域貢献部門」（地域貢献賞）からなります。受賞者には、賞状と副賞を授与しています。

第1回の授賞式は、2024年7月の当会総会の際に行い、医学研究奨励賞に群馬大学大学院医学系研究科腎臓・リウマチ内科助教の浜谷博子先生を、地域貢献賞に同大医学部附属病院地域医療研究・教育センター講師で同臨床研修センター副センター長の菊地麻美先生を選出しました（『【群馬】2024年創設の群馬県女医会賞で地域貢献賞を受賞-菊地麻美・群馬大学医学部附属病院臨床研修センター副センター長に聞く◆Vol.1』を参照）。また、当会の前会長である山田邦子先生に特別賞をお贈りしました。

賞創設の具体的な狙いとしては、受賞を履歴書に書けることです。履歴書に受賞歴があればポイントが上がり、採用や昇進でも好印象を与えることができます。些細なことかもしれませんが、これが地位確立につながればと思っています。また、若手医師を具体的な形で応援したいと考えています。

——浜谷博子先生（医学研究奨励賞）と菊地麻美先生（地域貢献賞）を選出した決め手は何ですか。

浜谷先生を選出したのは、女性研究者のロールモデルとして活躍されているからです。浜谷先生は院生時代からずっと研究に従事しており、留学も経験され、その研究成果は腎臓分野の治療に貢献すると期待されています。また、研究だけではなく、診療も行っており、学生の教育もしています。

菊地先生を選出したのは、まさに女性医師の地位向上や労働環境の改善に取り組んでいるからです。菊地先生は、患者思いなバイタリティーのある外科医で、乳腺が専門です。乳腺外科外来で患者の会を結成した経験も持ち、女性患者の不安や悩みに寄り添ってきました。また、菊地先生も診療だけではなく、臨床研修医の教育プログラムの管理、リカレント教育（還流教育）、女性医師の復帰支援研修などにも携わっています。

選出により、2人にエールを送れたと思います。

新聞に取り上げられ県内に周知できた

——第1回の表彰式も終え、賞創設の手応えはいかがですか。

幸いにも上毛新聞に取り上げていただき、医療関係者だけでなく、たくさんの方に当会を認知していただきました。新聞記事では、「女性医師の地位向上に向け」て賞が創設されたことも書かれており、私の「この賞が地位向上や労働環境改善の一助になれば」とのコメントも載せていただきました。当会のことと、当会が女性医師の地位向上に向けて活動していることを、広く県内で知っていただけたと思います。この点が、一番の手応えでした。

また、私はテニスをするのですが、テニス仲間からも「新聞で見たよ」と声をかけられましたし、記事を見た患者さんから「実は私も女性の地位向上に関心を持っています」と言われたこともあります。たくさんの方のエールをいただきました。

——群馬県女医会賞の今後について、どんな展望をお持ちでしょうか。

まずは、この賞をしっかりと続けていくことです。また、副賞を強化したいと考えています。ある程度原資を確保し、それなりの額を助成できるようにしたいと思います。そのためにも、この賞が広く認知され、たくさんの方に応募していただきたいと願っています。

◆山下 由起子（やました・ゆきこ）氏

1979年、東京女子医科大学を卒業し、同大消化器病センター消化器外科に入局。同大成人医学センター非常勤講師を経て、1991年に群馬県前橋市で山下医院を開業し、同院院長。2019年7月、群馬県女医会の会長に就任。日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本内科学会専門医、日本消化器外科学会認定医。

【取材・文・撮影＝武井克真】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

